

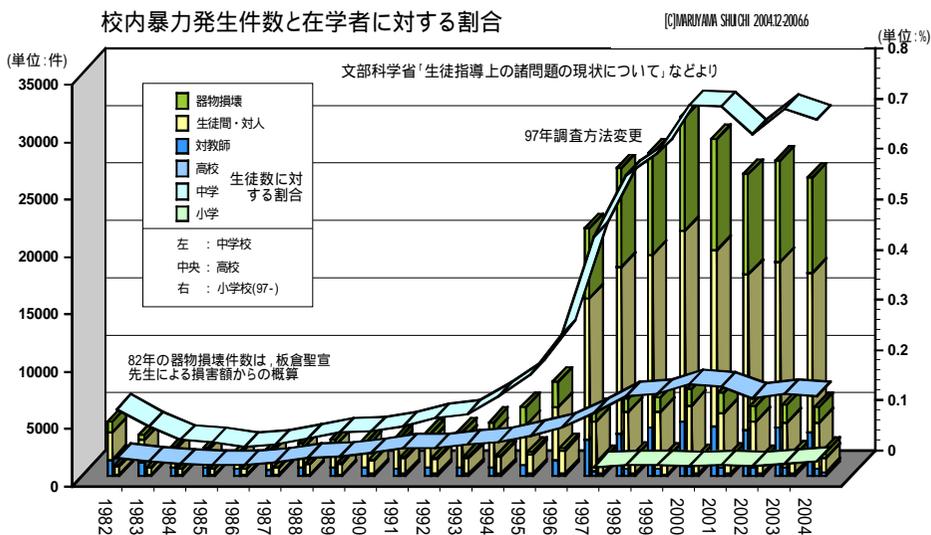
# グラフで見る校内暴力といじめ

暫定版

2006.11.25a

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一



2006年9月、文科省は「生徒指導上の諸問題の現状について」で昨年度の校内暴力やいじめの現状を公表しました。それについて見ていきましょう。

## 第一部 校内暴力

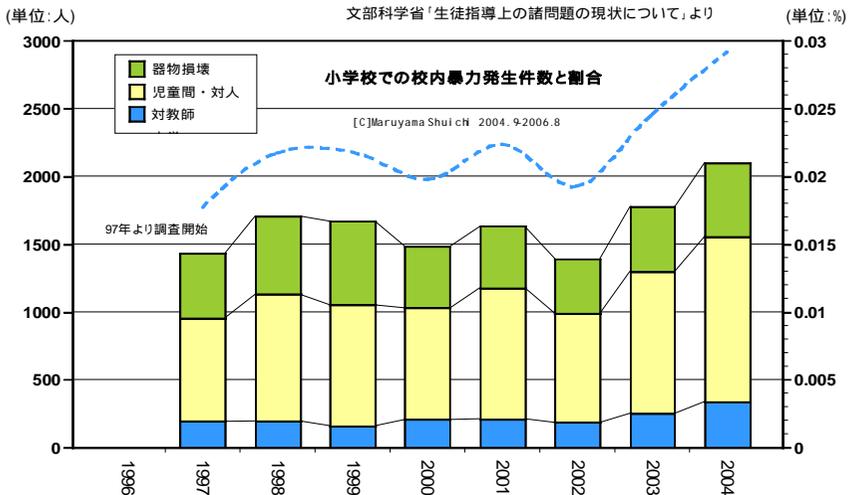
### 【問題】

まずは校内暴力についてです。一昨年度までの校内暴力は、グラフのように、2002年度にいったんは減少にするかに見えたのですが、2003年度には再び増加し、その後、小学校では微増、中学校と高校では横ばい傾向となっています。では、2004年度ではどうだったでしょうか。

まず小学校から見ていきましょう。割合で考えてください。

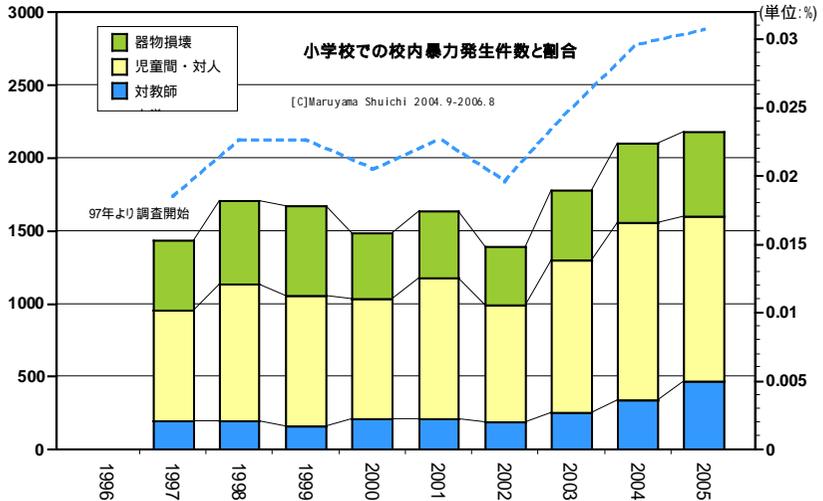
### 予想

- ア 増加
- イ 横ばい
- ウ 減少



(単位:人)

文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」より



増加へ

小学校では、2005年度も校内暴力は件数・割合とも増加しています。校内暴力の中身を見ると、「対教師暴力」が増えている、子どもたちが何に対して反抗しているのか がわかります。

### 【問題】

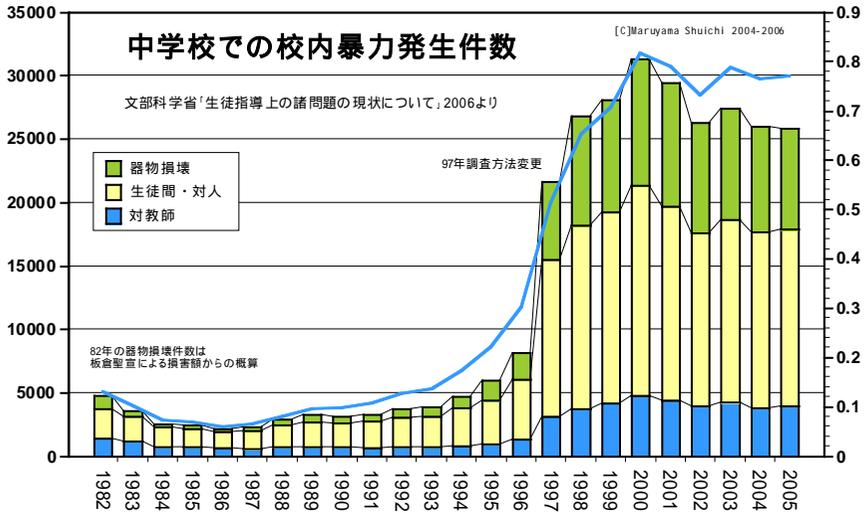
それでは中学校ではどうでしょうか。中学校での校内暴力の割合も増えているのでしょうか。

予想

- ア 増加
- イ 横ばい

(単位:件)

(単位:%)



ウ 減少

中学校

中学校では、発生件数は減少していますが、割合で見ると、ごく微増(0.004%)であり、「ほぼ横ばい」といえるでしょうか。

【問題】

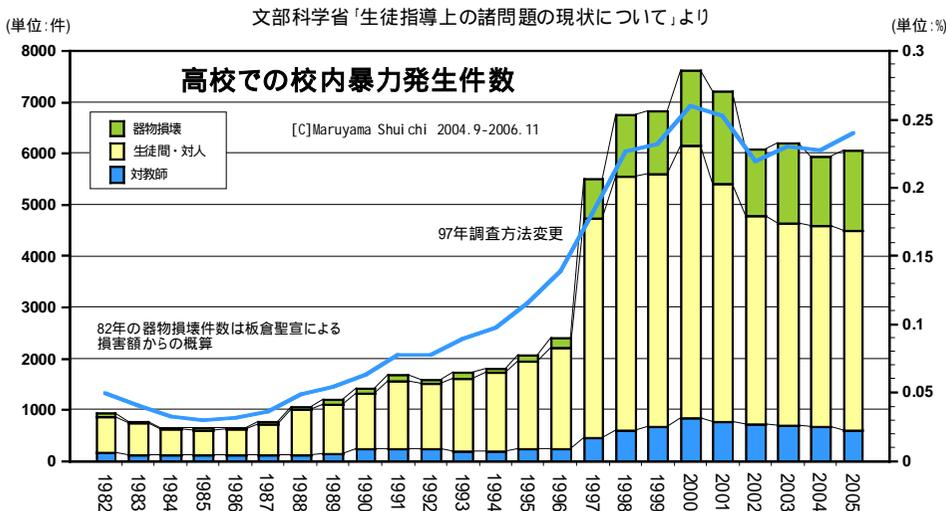
それでは高校ではどうでしょうか。高校での校内暴力の割合も増えているのでしょうか。

予想

ア 増加

イ 横ばい

## ウ 減少 高校



高校では、件数・比率とも上昇しています。それは「器物破損」が増えたことによるものです。

### 【問題】

それではこれらの調査結果を全国紙はどう報道したと思いますか。

予想

- ア 「小学校で悪化」
- イ 「中学校で落ち着く」
- ウ 「小・中・高とも悪化」

## エ そのほか

問題は「小学校」

| 紙名 | 記事タイトル                              |
|----|-------------------------------------|
| 朝日 | 児童の校内暴力，最多 2018 件 対教師 38%増          |
| 読売 | 小学生，教師に暴力 38%増 校内暴力 2000 件突破        |
| 毎日 | 校内暴力：公立小，初めて 2000 件突破 「対教師」<br>38%増 |
| 日経 | 小学生の校内暴力，過去最悪に 「対教師」が急増             |
| 産経 | 校内暴力 2018 件 公立小学校，3 年連続最多更新         |

このようにすべての全国紙が「小学校の校内暴力，特に対教師暴力増加」と報道したのです。読売新聞はその実態を次のように報道しています。

「イスけて歯向かう 6 年女児... 児童の暴力におびえる先生  
悩む日々」2006.9.14

「危ねーだろ」

千葉県男性教諭は昨年担任だった小 6 のクラスでの経験が忘れられない。

机とイスを勝手に動かして授業を受けていた女子児童に，元の位置に戻すよう注意したが従わないため，イスを引っ張って動かそうとした時だった。この女子児童はいきなり立ち上がり，イスをけた後，怖い顔で向かってきた。

女子児童の身長は教諭と同じぐらい，体格はまさっていた。教諭はしかりながら，心の中で「このまま取っ組み合いになったら……」と恐怖を感じたという。この教諭は複数の児童から，「どうせ殴れないだろう。殴ればクビになるんだから」と言わ

れたこともあった。

中国地方の男性教諭が昨年担任を受け持った小6のクラスでは、授業中、紙を丸めてセロハンテープで固めたものや画びょうが飛んできた。「アホ」「死ね」というヤジも降りかかる。教室に入ろうとすると、ドアに粘着テープが張り付けられていたこともあった。

荒れる数人の児童を頂点に、それをはやし立てる児童、ただ見ているだけの児童というピラミッド構造ができあがっていた。「まじめに授業を受けると、今度はその子がいじめられる。授業を拒否する雰囲気できていた」と男性教諭は振り返る。

保護者を呼んでも効果はなく、逆に学年懇談会で「うちの子を悪者にしている」と名指して責められたことも。「親が変わらなければ、子どもは変わらない」とこの教諭は訴える。

東京都内のベテラン男性教諭(50歳代)が2年前に担任を務めた5年生のクラスは、最初から「学級崩壊」状態だった。

授業中に児童はマンガを読み、水槽のメダカは針金を突き刺されて死んだ。授業が始まっても席に着かず、紙を丸めたボールとほうきで野球を続ける子供たちもいた。やめさせようと男児の腕をつかむと、「何すんだよ」と腕を振りほどかれ、胸を殴られた。それでも手を引くと、「いてて。教育委員会に言って、クビにしてやるぞ」とすごまれた。

どうも「対教師暴力」というよりは、記事にも書いてあるとおり「学級崩壊」という感じです。もしかしたら「学級崩壊」が「対教師暴力」として報告されるようになったのかも知れません。

毎日新聞では次のような実態を伝えています。

「校内暴力：深刻な対教師暴力の実態浮き彫りに…現状探る」

2006.9.13

給食の時間。小3の男児が壁や友達の机、テレビの台をガンガンとけて回る。周りの児童がはやしたて、男児の勢いは止まらない。教室の後ろでは、別の児童たちがパンをちぎって、ごみ箱に投げ入れる「遊び」に夢中だ。歩きながら給食を食べている児童もいる。

兵庫県内の小学校に勤務する40代の女性教諭は03年10月、学級崩壊したクラスの「応援」に入り、モノをけ散らす男児を廊下に引きずり出した。「何かをけらないと収まらないなら、私をけりなさい」。男児はためらわなかった。手加減もせず、女性教諭のおなかや足を20発以上もけり続ける。担任は別の児童を指導しており、暴行に気がつかない。女性教諭にとっては、児童から受けた初めての暴力を、隣のクラスの男性教諭が助けに来るまで耐え続けた。

3年生は2クラス。04年のクラス替えで、2クラスとも学級崩壊に陥り、さらに05年は下の学年にも「崩壊」が波及した。「指導を聞かない子どもと何度取っ組み合いをしてきたか。みんな（ほかの教師）もやられていた」。保護者会には、荒れている児童の保護者に限って欠席する。家庭での指導はもはや期待できなかった。今年度、女性教諭は耐え切れなくなって休職した。

「すれ違いざま、何もしていないのに『くそばばあ』と言われて……。今も小学生の登下校を見ると、心臓がドキドキする。このまま退職するかも……」

【問題】

このような「小学校での対教師暴力増加」について文科省はどんなコメントをしていると思いますか。

予想

- ア 家庭教育の問題
- イ 教師の資質の問題
- ウ 原因は不明
- エ そのほか



校内暴力の原因は「宿便」?!

## 文科省のコメント

| 紙名 | 文科省のコメント  |
|----|---|
| 朝日 | <p>文科省によると、特定の児童が繰り返し暴力をふるうケースが昨年より増えたという。小学生の暴力が教師に向かう傾向が強まっている点について、文科省は「はっきりとした原因は分からないが、けんかの仲裁に入った教師に逆上し、矛先を向けるケースが多いようだ。学級担任制で、担任一人に任せきりになるため、問題が放置されやすい状況がある」と分析している。</p> |
| 読売 | <p>文科省は、こうした校内暴力の背景に子供を放任しすぎる親の責任もあると指摘、しかられることに慣れていない子供が、教師の指導に過剰に反応しているのも一因だと分析している。</p>  |
| 毎日 | <p>同省は教師への暴力の増加傾向について、「259人で464件と、中高生に比べて1人の児童が暴力を繰り返すのが特徴。しかられた後に気持ちの切り替えができなかったり、注意を聞けないケースもある」と分析。「保護者の協力不足や担任任せな実態もある」と保護者との連携や校内での一致した対応を求めている。</p>                        |
| 日経 | <p>文科省は「表現力や忍耐力不足から短絡的に暴力行為をする小学生がいる一方で、教員が子どもを注意深く見るようになったことも増加の要因ではないか」としている。</p>   |
| 産経 | <p>文科省はこの結果を「深刻に受け止めている。小学校は学級担任制で児童1人ひとりに目が届きやすいメリットがある半面、担任1人で問題児童を抱え込みがちで、学校の組織的な取り組みが遅れを招きかねない。小学校も組織</p>   |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 全体での生徒指導体制を築くのが大切」(児童生徒課)と<br>している。 |
|-------------------------------------|

ということでコメントは一貫していません。ただ「学級担任制に問題がある」としたのが朝日,毎日,産経の三紙,「保護者の責任」としたのが,毎日,読売の二紙でした。日経で「教員が子どもを注意深く見るようになったことも原因」となっているのもおもしろいです。

また学者などからは,「家庭のしつけの見直しが必要」「ゆとり教育の反動による詰め込み教育の結果」という主張から,「スナック菓子,炭酸飲料の採りすぎによる低血糖症でキレやすくなっている」「教育基本法の改正が必要」というものまであります。

### 【問題】

このように「小学校での校内暴力の悪化」が大問題になっています。しかし,小学校での校内暴力は,件数・割合とも中学校や高校よりも低いものです。では,「小学校での校内暴力の割合」が,中学校や高校と比較して,大きく上昇してきているのでしょうか。

予想

- ア 中・高の2倍以上伸びている
- イ たいして変わらない
- ウ 中・高よりも伸びは小さい

## 伸び率

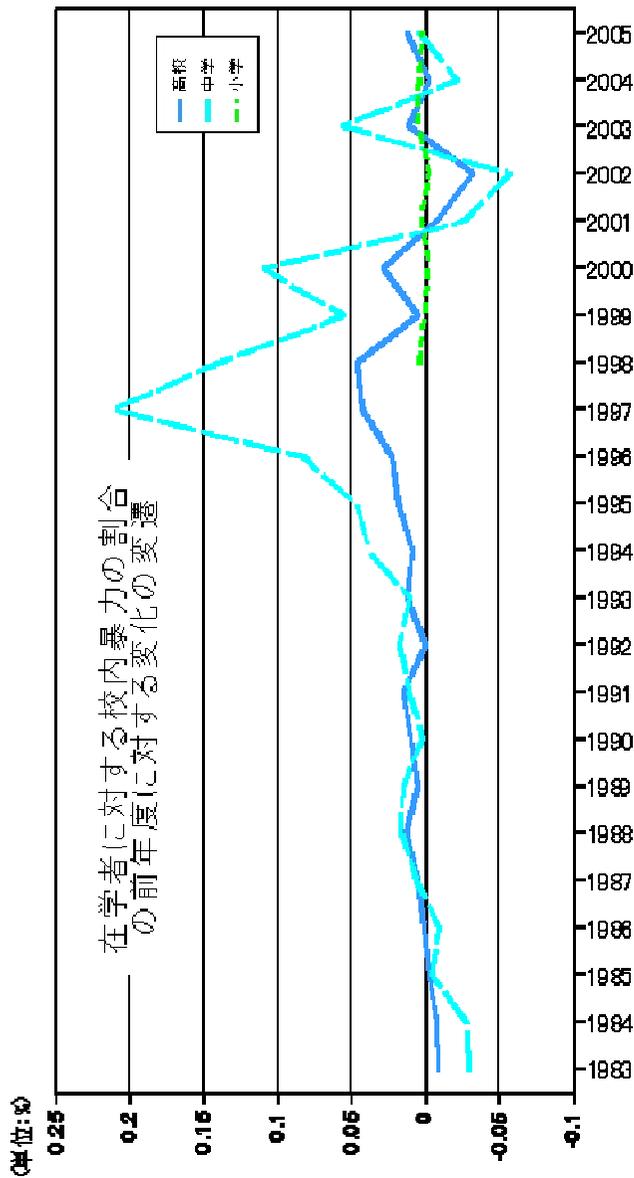
| 前年度差    | 小学校     | 中学校     | 高校      |
|---------|---------|---------|---------|
| 2003 年度 | +0.005% | +0.056% | +0.011% |
| 2004 年度 | +0.005% | -0.030% | -0.002% |
| 2005 年度 | +0.001% | +0.004% | +0.012% |

このように、2005 年度での小学校での校内暴力は在学者に対する割合で見ると前年度と比較して、中学校の 4 分の 1、高校の 12 分の 1 の「悪化」でしかありません。そして、小学校では、増加率がそれまでの 5 分の 1 に減少しているのです。

しかも、中学校と高校を見てみると、どちらも前年度はマイナスだったのに、2005 年度は増加に転じています。だからデータからは、「小学校の校内暴力よりも、中学校や高校の校内暴力が悪化している」として問題になっても良さそうなものなのです。

### 【質問】

では、なぜマスコミは「小学校の校内暴力増加」とだけ報道するのでしょうか。あなたはどのように思いますか。



## 事件性

マスコミが「小学生の校内暴力が最悪の状態」と言い出したのは、昨年度からのことです。そして、そのきっかけになったのが、2004年6月、長崎県で起きた小学6年生による同級生殺人事件でした。

| 前年度差   | 小学校     | 中学校     | 高校      |
|--------|---------|---------|---------|
| 2003年度 | +0.005% | +0.056% | +0.011% |
| 2004年度 | +0.005% | -0.030% | -0.002% |
| 2005年度 | +0.001% | +0.004% | +0.012% |

また2004年度の校内暴力は、中学校と高校が減ったのに対して、小学校だけ増えたという「事実」で、大々的に「小学校が悪化」と報道されたのです。

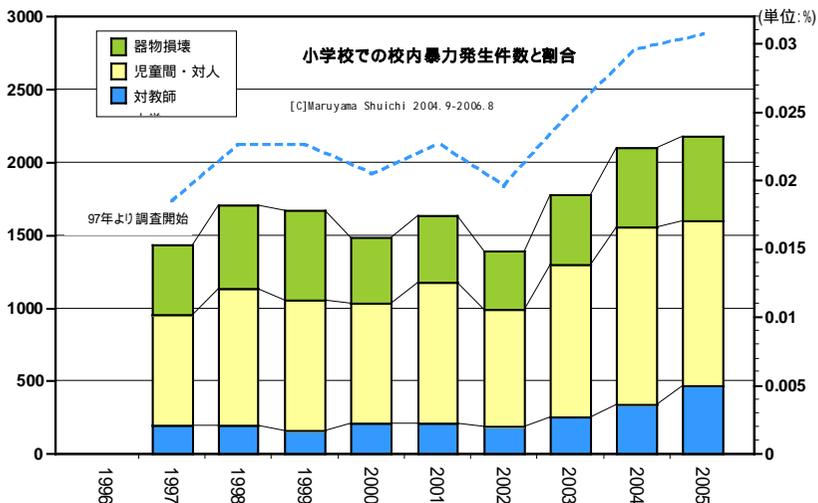
2005年度の調査結果に対する報道でも、「小学校での増加傾向が続いている」として、2004年度のときに同じような報道がなされたのでしょう。

中学校や高校での校内暴力は、もう10年近くも多いままの状態を続けています。つまり、それでは報道メディアにとって「ニュースとしての事件」にはならないと考えられます。でも、「中学校や高校に比べて、ずっと校内暴力が少なかった小学校で、いま校内暴力が急増している」というのであれば話題性もあることでしょう。

しかし、それはこれまで見てきたように「事実」ではありません。だがしかし、グラフで次のように示されると、「小学校で校内暴力が急増している」と思えるのではないのでしょうか。

(単位:人)

文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」より

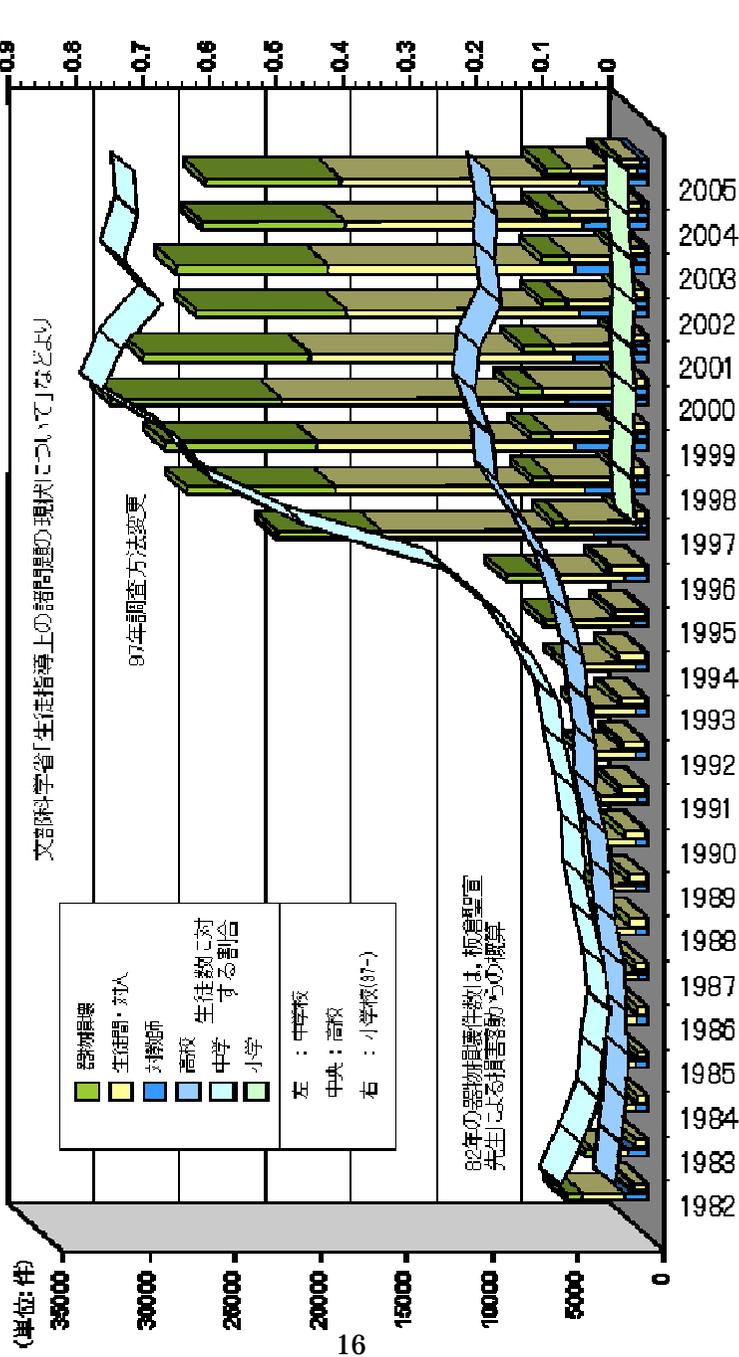


でも、これはグラフにだまされているのです。これまで提示してきた、小学校、中学校、高校の校内暴力のグラフは、わざと縦軸の最大値をバラバラにしてきたのです。本当は、こんなグラフでは、「小学校」、「中学校」、「高校」を比較することはできないのです。

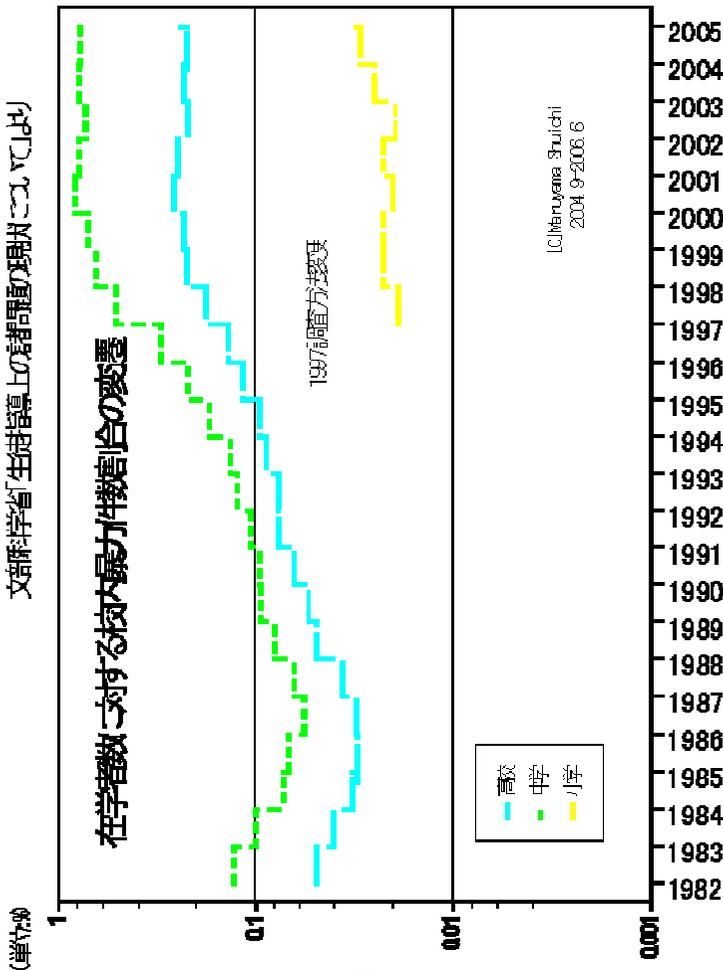
そこで最初に出てきたグラフのように、小・中・高とも縦軸の値を同じにしてグラフを描くと次のページのようにになります。(こみ込んだグラフを見やすくするため立体的にしています)

# 校内暴力発生件数と在学者に対する割合

LDN/HD/MP/MA/SHU/CH/2004/230066



こういったグラフなら，小・中・高の比較が可能になるわけです。そしてこのグラフからは「小学校で校内暴力悪化」という「事実」は見えてきません。分かるのは「いったん減少するかに見えた校内暴力は，また増加に転じたようだ」ということです。校内暴力は，小学校だけでなく，中学校や高校でも，まだまったく解決されていない学校教育の大きな問題のままなのです。



## 第2部「いじめ」につづく

### 典拠文献

- ・ 文科省による各種統計「学校基本調査」「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」
- ・ 全国紙の新聞記事。

「いじめ」のほう時間がなくてまとまらなかったので、別に分けることにしました。